

困ったときは

地域包括支援センターにご相談ください

- 例えば
- 家族がもの忘れて困っている
 - 近所の人を道に迷っているのを見かける
 - 認知症が心配で病院に行きたいけど、どこに行ったらいいのかわからない
 - 外出するのが億劫になった
 - どこに相談したらいいのかわからない など



以下の教室に参加を希望する場合は
地域包括支援センターへお問い合わせください

認知症のある方同士で語り合おう /

本人ミーティング

認知症のある方同士が、自身の希望や必要としていることなどを語り合い、暮らしやすい地域のあり方を一緒に話し合う場です。



認知症について相談しよう /

家族介護教室・家族介護交流会

医療・介護の専門職による介護に関する講義と参加者同士の交流を行います。



認知症のある方と交流し、認知症について知ろう /

オレンジカフェ

オレンジカフェは、認知症のある方、ご家族、地域にお住まいの方、医療・介護専門職など、誰もが気軽に集うことができる場です。



相談無料

地域包括支援センターは
高齢者の方の総合相談窓口です

専門知識を持つ職員が、地域で暮らす高齢者のみなさんを保健・医療・福祉・介護などのさまざまな面から支援する総合相談窓口です。本人だけでなく、家族や地域のみなさんからの相談も受け付けています。お住まいの地域によって担当する地域包括支援センターが決まっています。ご不明の場合は、地域包括ケア推進課へお問い合わせください。

TEL 049-224-6087

市内地域包括支援センター
連絡先はこちら



認知症のことを知ろう

認知症サポーター養成講座

認知症について正しい知識を持ち、認知症のある方やその家族を応援する「認知症サポーター」を養成するための講座です。

地域包括ケア漫画

～みんないつかは年をとる～ (埼玉県作成)



認知症の症状は

100人
いれば
100通り

認知症とは

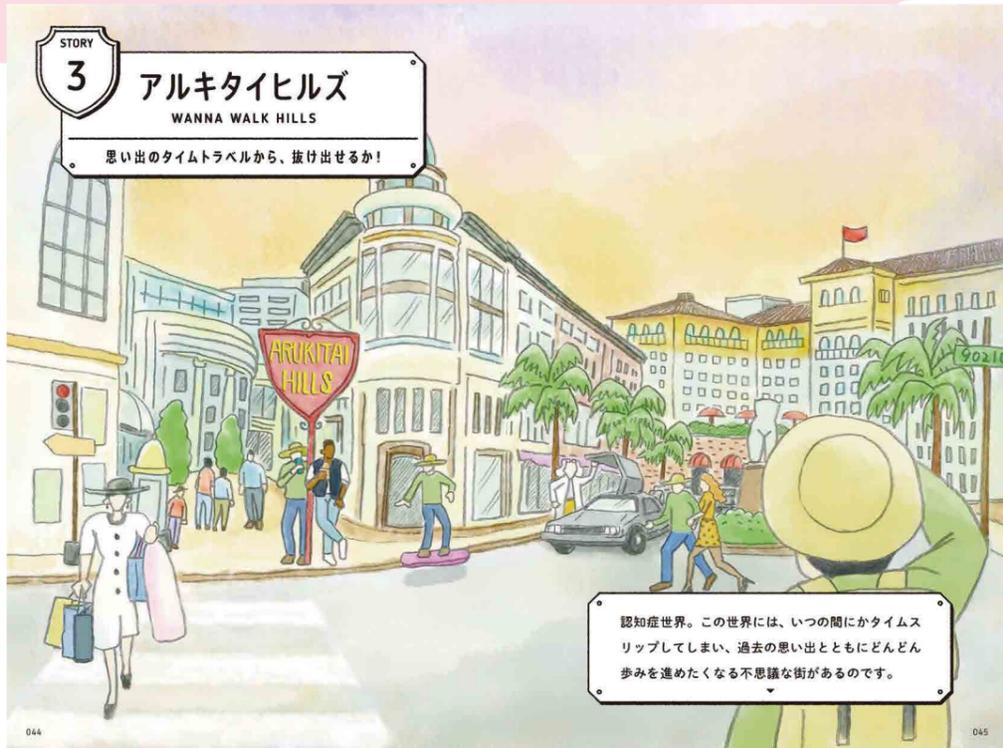
「さまざまな原因により脳に変化が起こり、それまでできていたことができなくなり、生活に支障をきたしている状態」のことです。症状の現れかたは一人ひとり異なり、そのためその人が感じる生活のしづらさも様々です。他者から見て、見た目や普段の会話だけではわからない、説明が難しいような症状を抱えている方も多くいらっしゃいます。認知症のある方の行動には必ず【理由】があります。行動の背景にある理由が分かれば、対応の仕方が変わります。



症状の現れかたは一人ひとり異なるため、認知症のある方の困りごとは本人にしかわかりません。
 認知症のある方、約100人へのインタビューを通し、本人の視点でどんな風に見えて、感じて、困っているのかを旅人になぞらえて紹介している「認知症世界の歩き方」(ライツ社)を参考に、生活のしづらさを感じている背景には、どんな理由があるのかを考えてみましょう。



見えるのはなぜ……？
 歩き回っているように
 目的もなく



認知症世界。この世界には、いつの間にかタイムスリップしてしまい、過去の思い出とともにどんどん歩を進めなくなる不思議な街があるのです。

「認知症世界の歩き方」p44-45(ライツ社)より引用

「家の外に出る」には理由があります

こんなことが原因かも？

時間感覚

- 退職した会社に行くなど、今でも通っていると思いついでいる

記憶障害

- 歩いているうちに目的を忘れてしまう
- 過去に住んでいた自宅を思い出し、今の自宅ではなく過去に住んでいた場所に急に帰りたってしまう

CHECK!

川越市お帰り安心ステッカー

街中で靴や杖などにステッカーを貼っている方を見かけたら、もしかするとこのような状態で困っているのかもしれない。見かけた際は、優しく声をかけて、必要なときは警察などにご連絡ください。



詳細はこちら

嫌がるのはなぜ……？
 大好きだったお風呂を



認知症世界。この世界には、入浴するたびに温度や匂い・肌触りなどが変わる不思議な湯が湧き出る、ドッキリ温泉があるのです。

「認知症世界の歩き方」p98-99(ライツ社)より引用

「お風呂に入りたくない」と思うには理由があります

こんなことが原因かも？

皮膚感覚

- お湯がぬるっと不快に感じる

温度感覚

- お湯が極度に熱く感じる、または冷たく感じる

記憶障害

- 入浴したばかりだと思っている

空間認知

- 服の着脱がうまくできない

CHECK!

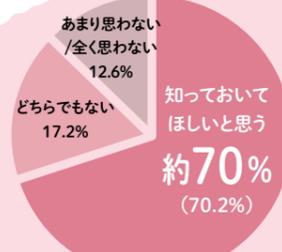
こんな工夫ができます！

体調に合わせてお風呂入るタイミングや方法を変えてみる

例えば……

- 午前中に入る
- シャワー浴のみにしてみる

Q 家族が認知症になったら、協力を得るために近所の人や知人などにも知っておいてほしいと思いますか



「ややそう思う」が40.1%と最も高く、次いで「そう思う」が30.1%と約7割の方が近所の人や知人に知っておいてほしいと回答しています。

資料：令和4年12月介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

一人ひとりが認知症のある方の声に耳を傾けることで、本人にしかわからない困りごとへのサポートが可能になります。本人の生活のしづらさに気づき、そっと手を差し伸べることができれば、いつまでも住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができます。無理したり、頑張りすぎず、困りごとがあるときは、抱え込まずに周囲の人や専門職に相談しましょう。心強い味方になってくれるはずです。

